



喫煙している母親から生まれた新生児の平均出生体重は、妊娠中に喫煙していない母親から生まれた新生児よりも低い。受動喫煙にさらされた新生児では乳幼児突然死症候群（SIDS）のリスクが高くなり、受動喫煙にさらされた乳児および年長の小児ともに、呼吸器感染、喘息、せき、喘鳴、および耳領域の感染症のリスクが高くなる。小児に対する受動喫煙曝露の有害な健康影響は1章で詳しく説明されている。

子どもたちが暮らし、学び、遊ぶ場所で大人が喫煙するため、子どもたち

は強制的に受動喫煙させられている。公共の場および職場で喫煙を禁止する国がますます多くなっている一方で、子どもたちが時間を費やす家庭内、車内、その他の場所では、受動喫煙にさらされることから子どもは依然として守られていないままである。

この報告書は、子どもに対する受動喫煙への曝露を減らすためのアプローチを説明している。私たちは子どもがどのようにさらされるかを検討し、次にこの曝露の有害な健康への影響を考察する。また曝露を抑えることを目

的とした政策および介入についてレビューする。最後に子どもをさらに守るためにどうすればよいかについての提言で締めくくりたい。